

米国の核に対する考え方とウクライナ紛争

作成日：2022年3月13日

太平洋戦争で米国は日本に2回も原爆を落とし、武器を持たない何十万人もの無辜の民を殺した。それに対し米国は戦争を早く終わらせ、米国兵の犠牲者を少なくするためにしたことであり、正しいことであったと主張する。この行為は人道的に誤ったことであり、戦争犯罪であり、本当にすまなかったという正式な謝罪を米国は未だに日本にしていない。これから米国は自国民の犠牲者を少なくするためなら、核を使うことは正しいことであると考えていることがわかる。米国が核を使わない唯一の理由は、もし核を使えば相手国から核で報復され米国民に多くの犠牲者が出ることである。相手国が核を持たず、その友好国からも核で報復されないことが確実であるなら、米国は米国兵の犠牲者を少なくするために核を使うだろう。このことから、米国の核から自国を守る唯一の方法は核武装することであることがわかる。北朝鮮が自国を守るために核武装するのは、理解のできることである。米国が日本に対して核攻撃したことは誤ったことであったと心から謝罪しない限り、世界中の国は核武装しようとする。

モスクワとキエフの距離は876kmと言われており、日本の東京と福岡の距離である。ウクライナに核ミサイルを配備されると、3分でモスクワに到着する。米国からモスクワを核攻撃すれば、核ミサイルが到達するのに30分かかかる。30分あれば、核攻撃を察知し報復することができる。それで米国は報復を恐れて核攻撃しない。しかしわずか3分しかないと、大統領の許可を取り、報復の核ミサイルを発射することはまずできない。米国の考え方からすれば、相手国が核で報復できないことが確実なら、米国兵の犠牲者を少なくするために核攻撃する。ウクライナに核ミサイルを配備されることを恐れてウクライナに進行したロシアの行為は、自国を守るためのやむを得ない行為となる。